

デジタル Essense エッセンス

「FOMA スクワッティング」

坂口 裕靖

きっかけは、今年の五月一杯で、現在契約中のファミ割 MAX50 が期限を迎える、というドコモからのメールでした。

まあ二年前は物理キーの使い勝手を優先して、FOMA なガラケーにしたわけですが、これを後 2 年続けるのか、それとも変えるべきなのか、考慮する良いチャンスをもたらったわけです。そこで、回線関係を整理してみることにしました。

現在使っている回線は、ファミ割 MAX50 を契約している FOMA の回線が一つ、IIJmio の 10GB ファミリーシェアプランに紐付いている SIM が二枚と、おうち用のフレッツ光ネクスト・マンションタイプという構成です。まあおうち用の回線は置いときましょう。根本的な問題は電話回線をどうするか、という一点に集約できます。

おうち用の回線には HT-701 経由で電話

をつなぎ、050plus な IP 電話を運用します。とりあえず電話を受ける分には特に不自由を感じていませんが、残念なのが緊急通話が一切できないこと。その意味では、緊急通報可能な回線を確保する必要があります。となるとモバイル側も IP 電話にすることはできません。本当は IP 電話で 119 番がかかけられないところに問題があるとは思いますが、まあ現状そうなるので、いちユーザーとしてはなんともできません。これが技術的問題とは到底思えないので、放置してよしとしているあたりにどんよりとしたものを感じはしますが、SIP が通ってるんだから経路はわかりうるはずだし、あるいは場所を登録するスキームがあれば解決する問題じゃね。

というわけで、まず IP 電話で凌ぐ案は却下となります。となると、次はキャリアを

変更したり、電話番号を変更したりしてでも電話回線を変えるべきかどうか、という話になります。現状のドコモの契約条件は、タイプシンプル・バリューとパケ・ホーダイシンプル/ダブルに i モードと留守電つけて、ファミ割 MAX50 というものでした。ほとんど電話しないので、課金額の大部分はパケット通信部分にかかってて、月額だいたい 6000 円ちょいという状況です。うち、パケ・ホーダイ部分が約 4200 円。一方、IIJmio の方は現状データ通信のみですが、毎月 10GB まで使えて、2800 円弱、という感じでした。

まず別キャリアの可能性ですが、au/softbank のいずれかへの引っ越し、は基本的に考えませんでした。それぞれ使ったことがあり、まあその色々あったので……。仮にキャリアだとデータ通信のパフ

ワンポイント パスワード sp モード (i モード契約可)

ドコモの ISP サービスは i モード、sp モード、moperaU という 3 種類があります。i モードはドコモ専用端末専用の ISP サービス、sp モードは任意のスマホ用 ISP サービス、moperaU は非電話端末用 ISP サービスという感じでしょうか。ガラケーの場合、i モード以外の通信方法は回線交換経由でのモデムという話になるので、事実上 i モード必須でした。一方 sp モードについては、そもそも wifi 接続前提なら不要だったりします。このあたりは moperaU も一緒ですな。基本的には @docomo.ne.jp なアドレスを提供するためのサービスで、オマケとして ISP 機能がついてくるという感じでしょうか。

さて、実は i モードと sp モードは基本的に排他的であって、同時契約を前提としていません。そのため、i モードから「sp モード」に変更すると、i モードのアカウントがすっぱり消えて、i モードで使っていたメールアドレスの管理が sp モードに移行します。この状態だと、i モード通信をすることができません。一方、

「sp モード (i モード契約可)」を選ぶと、アカウントの破壊的移行はそのままですが、これに加えて、i モード●も●契約することができます。ただし、sp モード契約時に解約されてしまっているため、別途手続きしないと使えません。なので「契約可」となっているのでしょう。

非常に論理的で理路整然と正しいのですが、そもそも「基本的に排他」という部分を理解していないユーザーには、何を言いたいのかちっとも伝わりませんし、想像もできません。だって、契約可能なのは当たり前だと思ってますから。こういった、そもそも「i モードって何」的な部分をふんわりと抽象的にしか説明してくれないため、根本的なところでつまづくことが多いように思います。長くてもわかりづらくても構わないから、正確に何をやってるのが伝えて欲しいものですが、知りすぎてると難しいんでしょうね。

パフォーマンスが高いとしても、コストも高いので、データの主回線にするのはちょっとむずかしいところです。次に検討したのが、IIJmioへのMNPイン。タイプシンプル・バリューの通話料金は20円/30秒なので通話料金的にはIIJmioと同じ、IIJmioはプリフィックスをつければ半額となり、なかなか魅力的です。一方、通話可能なSIMは1つあたり756円の付帯料がかかります。留守電も324円と同料金なので、結局パケホーダイを除けば金額的にはほとんど変わらないことに気づいてしまいました。逆に言えばドコモの付加サービスがすべて使えなくなった代わりに手にできるのが、プリフィックスによる通話半額だけです。というわけでこちらもあまり魅力的には見えません。

次に検討したのがドコモの「シンプルプラン」です。これは親回線に寄生することで、パケットパックの金額を抑えることができるというものです。基本プランが980円、パケットパックのシェアオプションが500円、spモードが300円ということで、合計1780円+税が必要となります。しかしながら、シンプルプランで寄生できる親回線のパケットパックには制限があり、安いものではシェアできない仕組みになっています。更に、ファミ割MAX50は適用できません。6000円ちょいが1780円ちょいになるという意味では安くなりますが、親回線のパケットパック増額分（例えばデータSパックをシェア可能なシェアパック5に変更すると、3000円アップ）も含めると、実は現状より1000円ぐらいしか安くなりません。留守電も考慮すると差額は700円まで縮まり、ちょっと電話すると吹き飛ばす程度のもので、ほとんどメリットがないこととなります。

というわけで、結局FOMAの回線を維持し、ファミ割MAX50を延長することに決めました。ただし、端末はガラケーからDSDSなスマホに変更し、データ通信はIIJmioのみで行う作戦です。こうすると、主として電話関係だけの課金となるため、ファミ割MAX50の効果で月額1400円ぐらいで使えることになり、結局シンプルプランより安くなるはず。しかも、う

まく端末を選べばタブレットと電話の二台持ちを、スマホ1台に集約できる可能性があります。

さて、で端末の選択に入るわけですが、色々悩んだ結果、asusの5.5インチなZenfone3にしました。コストパフォーマンス的にも、表示面積的にも、CPUの能力的にも、明らかに6.8インチのZefone3 Ultraがベストです。しかしながら、電話として持ち歩こうとすると、流石に大きすぎます。今まで使ってた7インチのタブレットもポケットには入り切らないため、バッグに入れて運んでました。そうすると、仮に着信しても気づかないという場面が増えそうで、そもそも電話回線を選択する意味がなくなってしまいます。以上を考慮してUltraは諦めました。次に大きなサイズは5.7インチとなりますが、これは大変高価なため泣く泣くパス。というわけで3番めに画面サイズの大きな5.5インチになるわけですが、高性能で高額なZE550KLと、比較的安価なZE552KLがあります。こちらも安い方を選択、結局ZE552KLとしました。

事前に色々なサイトをみたものの、どこもバイブレーションの有無について書いてなかったので不安でしたが、実際にはちゃんとバイブ機能がありました。それまで使っていた7インチのタブレットにはバイブ機能がなかったので、ちょっとナーバスになってたのです。まあ、ついてて当たり前なので誰も記事にしなかったのですが、SIMについては、マイクロSIMとナノSIM、もしくはマイクロSIMとmicroSDXCのいずれかが使えるようです。IIJmioのSIMがマイクロSIMだったこと、FOMAのSIMがマイクロSIMだったこと

などから、IIJmioに一枚nanoSIMを追加して凌ぐことができました。

最後の難関がいままでの@docomo.ne.jpなメールアドレスを使えるようにする設定です。ここで最大の問題は、このFOMAのSIM経由でない、spモードを使う設定(docomo ID利用設定=利用する)に変更できません。ガラケーのフルブラウザでアクセスしたら、複雑すぎて解釈できず。仕方ないのでZenfone3にドコモのSIMだけを入れ、3Gモードにして通信し、やっと設定できました。もっとも、FOMAのパケット通信はできるくせに、音声側は認識しませんでした。この問題はnanoSIMも突っ込んで再起動したら解決しました。これはそういう仕様ということで割り切りました。

というわけで、データ通信は全面的にIIJmio、音声通話はすべてドコモというDSDSな端末を導入することで、いままでのdocomoメールも送受信可能な状態を維持しつつ、ケータイにかかるコストを大幅に安価にすることができて、今のところ満足しています。

ただねえ、5.5インチはおもったより大きかったというのが正直なところ。片手でギリギリ操作できるサイズなんだけど、親指でタッチしようとする、親指の付け根が画面の端にタッチしてしまい、なんか変な動作になってしまうことが頻発して、ちょっといやーんな感じ。それでも老眼鏡がないと読みづらいのはちょっとさびしいですな。

Hiroyasu Sakaguchi
(株)IMAGICA イメージワークス



ニッサン新エルグランド4WD
5名定員

1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載
車高2.2m以下(地下駐車場可)

3.6 KVA NMG アイドリング運用
水圧エコ・ポール4m 搭載
強化サスペンション
国内(100V)海外(240V)対応
IPコントロール
ハイビジョン映像伝送
運転席からワランオペレーション



スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

<http://www.bizsat.jp>



設計・製造・衛星通信のことなら
エーティコミュニケーションズ株式会社
TEL: 03-5772-9125

